

沼田特別支援学校 学校評価一覧表②(令和4年度版)

(様式2)

羅 針 盤			学校経営方針との関連	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	① 保護者や地域への授業公開・学校公開を年間10回以上実施し、参加者(保護者や地域住民等)の80%以上から「学校の様子がわかった」と好意的な評価を受けている。	教育活動の積極的な公開	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開は、新型コロナウイルス感染症のため、人数制限や廊下からの参観等、感染症対策を講じたうえで、安全の範囲内で実施した。学校公開は新転入学希望者のみ、限定で実施したが、地域や関係者に公開できなかった。また、「かがやき祭」では全学部で土曜日に開催し、ステージ発表や作業製品販売を行うことができた。 メール配信システムと紙面、それぞれの利点を活かし情報発信を行った。本校Webページにおいても種々の学校行事や日常の授業風景等を定期的に更新することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開は、新型コロナウイルス感染症の状況に注視しながら年度当初から計画的に準備を進める必要がある。 地域や関係諸機関に対して学校の取組を周知する機会が少ないことが課題である。学校公開は感染症に留意して、公開する範囲を拡大していく。 引き続き、メール配信システムや書面での情報発信を使い分け、より内容が伝わりやすいようにする必要がある。 本校Webページを有効活用して、学校行事や日常の授業風景等を発信していくとともに、保護者専用ページの有効活用及び充実を図る。
		② 通信・配付物等で情報発信を行い、その内容について、保護者の80%以上が満足している。	家庭・保護者との連携強化	A	A	A		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③ 地域の小・中・高校や福祉施設との交流及び共同学習や居住地校交流で保護者や相手校の80%以上から、有効な交流であったとの評価を得ている。	交流及び共同学習の充実 「かがやき工房」による発信・つながり	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 交流内容や実施形態を再検討し、各学部ともに直接交流する機会を増やすことができた。小学部では、各学期ごとに遊び交流をしたり、沼田東小との合同運動会に向けて繰り返し一緒に練習をしたりすることができた。中学部では歩道橋の清掃活動を継続し、高等部では「かがやき工房」の鹿革製品委託販売やレザークラフト体験講座などを通じ、本校の教育活動の様子を地域に周知することができた。さらに今年度の居住地校交流では、感染症対策に配慮しながら、直接、相手校に訪問して学習活動に参加することができるようになり、回数や内容が大幅に充実した。 	
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④ 地域の各学校等からの依頼に基づき、各校のニーズに寄り添った助言援助を行うとともに、地域の幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーターに対する研修会を年1回以上開催し、研修参加者の80%以上が満足している。	センター的機能の強化	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談のパンフレットをホームページに掲載したことで専門アドバイザーの効果的な活用方法を管内の園・小中学校に周知することができ、よりの確かなニーズに応じた支援を行うことができた。 定期的・継続的に巡回相談に赴くことで、助言援助を短期スパンで評価、改善していくことができた。そのため、子供たちの成長を見て取ることができ、巡回相談の成果を大いに感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談の依頼が年間を通して少ない管内の園・小中学校がまだあるため、引き続き学校公開や特別支援コーディネーター研修、本校Webページ等を活用し管内の学校に周知をすると共に、身近に感じて活用してもらるように、内容の改善を図る。 オンラインを活用した特別支援コーディネーター研修を定期的に開催する。
		⑤ 「個別の指導計画」を踏まえた教育計画を立案・遂行するために、保護者との個別面談を年3回実施するとともに、教職員同士で指導状況を確認し合う機会を月2回以上行い、80%以上の教職員が個に応じた指導の充実に関与している。	個別の教育支援計画・個別の指導計画の効果的な活用	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と共通理解のもと「個別の指導計画」を作成し、個別面談を年間3回実施して、学習の状況を確認することができた。 授業終了後や放課後の時間を活用して教員同士の授業の振り返りを行うことができ、授業改善に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに児童生徒の学習状況について記録し、実態把握表に反映させることで課題を明確にして、保護者と共通理解を図ったうえで指導にあたる。 教員相互の授業の振り返りを充実させ、共通の指導方法及び児童生徒の評価の確認を行い「個別の指導計画」に反映させる。また、個別の指導計画検討会議を年間行事計画に組み入れ、定期的実施する。
	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑥ 校内やオンラインを含む校外の専門的な研修に教職員一人あたり年間3回以上参加し、研修成果を日々の指導や支援に生かしている。	外部専門家の活用	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の研修コーナーやGoogleチャットスペースなどを活用し、基礎研修講座や外部の研修会を紹介することで、職員に対し周知することができた。そのため研修への参加者が大幅に増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、外部機関によるオンライン研修の参加を推奨する。また、伝達講習や研修成果を用いた研究授業を計画し、より多くの職員が成果を活用できる機会を設定する。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑦ 研修テーマに沿った一人一実践をグループ別研修を通して事例紹介をすることで個の実態に応じた指導支援の方法を研究している。	実態に応じた指導法の研究	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が一人一事例の実践発表を行うことができた。それをクラウドに保存し、相互に閲覧できる体制をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ別研修で実践発表を行うことができた一方で、クラウドに保存してある他クラスの授業を見る機会(回数)について不十分であった。クラウドの活用方法や実践の公開の方法について工夫改善が必要である。
	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑧ 「個別の指導計画」に基づいた指導結果について、保護者の80%以上が満足している。	ねらいの明確な授業と授業改善	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の指導計画」に基づいた授業実践がなされ、大多数の保護者が満足しているという結果であった。また「個別の指導計画」の指導状況を学部会で確認し、共通理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りや指導状況の確認の中で話し合われた内容を、迅速に日々の実践の中で生かせるシステムの構築を図る。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨ 児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の80%以上が満足している。	毎日の連絡帳の活用などによる保護者との緊密な連携	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> スクールバスの介助員・放課後等デイサービスの指導員・保護者との情報交換を登下校時に行い、緊密な連携が図られた。また、全職員間で情報の共有を図ることで、日々の児童生徒の健康状態の確認を行い指導に生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や児童生徒に対して、学校保健委員会等の集会や定期的な保健だよりで健康に関する情報を発信し、健康への意識を高める。 校内で新型コロナウイルスの感染者が確認された場合の保護者への連絡方法について、個人情報に配慮した情報提供方法を検討する。
		⑩ 医療的ケア対象児童生徒の実態・ケア状況等について理解し、校内の環境や体制の整備に努めていると感じている職員が80%以上である。	医療的ケアの安全な実施	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象児童生徒の実態、ケア状況、緊急マニュアルを全職員に回覧することで、理解を促すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアの児童生徒がいらない学級の教員も、医療的ケア研修の内容を理解し、日々の指導や緊急時の対応に生かせるようにする。さらに、医療的ケア対象の児童生徒についてこれまでの対応事例を分析して職員に周知徹底を図る。 年度当初に、防災マニュアルや危機管理マニュアル、避難訓練の実施方法を研修等で確認する。また年度途中でも確認する機会を設け、すべての職員が自分の役割や業務内容を理解できるようにする。
	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑪ 危機管理マニュアルをすべての教職員が理解している。	安全・安心な学校	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で避難訓練の提案をする際、マニュアルも同時に配付して説明した。また、共有フォルダに各種防災マニュアルを整理保存し、全職員が閲覧できるようにして周知徹底を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会等で確認しているヒヤリハット事例をデータベース化して、過去の事例を全職員が常時確認できるようにすることで、校内における安全管理を徹底する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑫ すべての教職員が、児童生徒一人一人の「地域で豊かに生きていく力」を育成するため、キャリア教育全体計画に沿って指導や支援をしている。	「かがやきプラン」による、小中高12年間の系統的な指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育年間指導計画ならびに授業実践及び基礎研修講座「かがやきプラン(卒後の進路)」によりキャリア教育の視点からの指導内容を整理して系統的な指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、長期休業中などを利用して職員の施設見学・利用相談の機会を増やす。 高等部で実施している現場実習関連資料(主に評価表)の内容を職員間で共有し、本校の児童生徒が高める必要のある資質・能力を把握することで系統的な指導を実践する。
		⑬ 保護者との面談や進路通信で提供される進路指導に関する情報が役立っていると感じている保護者が80%以上である。	関係機関との連携の強化	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策などにより会議や研修の開催方法が変更になることもあったが、関係機関と連携し進路関連行事や進路通信等の発行を通して発達段階に応じた進路指導を概ね行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの流行状況を注視しながら引き続き進路関連行事の実施や進路通信の発行を行うとともに、個別面談等の機会に進路指導主事、部主事が同席するなどして進路情報の提供を行う。
VI いじめを許さない学校づくりを行っていますか。	10 児童生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑭ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にやっている」と感じている保護者が80%以上である。	いじめを許さない学校づくり	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒主体の「沼特いじめ防止フォーラム」を学校全体で実施することによって、学部を越えての、いじめ防止活動を実施することができた。また、いじめに関するアンケートや、定期的な「いじめ防止対策委員会」の開催により、未然防止・早期発見につながり、大きないじめ案件は発生しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒主体のいじめ防止活動を充実させるとともに、いじめに対する法的理解の研修を行い、職員がいじめ防止に対する意識を高める。 いじめ防止対策委員会、職員会議、学部会等を通じ、情報交換・共通理解を図り、全職員で組織的に対応する。